

大浦遺跡群発掘調査概報

福岡県糸島郡前原町大字大浦遺跡群の調査

前原町文化財調査報告書

第 26 集

1987

前原町教育委員会

序 文

前原町は、原始・古代より栄えた地域で、特に、朝鮮半島に近接するなどという地理的要因などの理由から、外来文化の影響を数多く受けています。よって、埋蔵文化財の量の多さは驚異な点であり、「伊都国」の中心地として比定されています。

その中で、前原町に大型開発の計画が、住宅都市整備公団で立案され、大浦遺跡群がその対象地域になり、前原町教育委員会では発掘調査を実施して、この報告になった次第です。

大浦遺跡群は弥生時代・古墳時代の遺跡が存在していることで、周知の遺跡とされてきました。今回の調査では奈良時代までの遺跡も確認され、さらにその重要性が再認識できたようです。

最後に、埋蔵文化財発掘調査に伴い、多種多様のご協力をいただきました、大浦・多久地区の地権者の方々や住宅・都市整備公団九州支社・その前原工事事務所の皆様にお礼を申し上げますとともに、今後とも文化財行政等にご協力にいただきますようお願い申し上げます。

昭和62年 3月31日

前原町教育委員会
教育長 河原吉美

例 言

1. 本書は、大浦遺跡群の埋蔵文化財発掘調査概報である。
2. 大浦遺跡群は、福岡県糸島郡前原町大字大浦に所在する遺跡群である。
3. 調査は、住宅・都市整備公団九州支社より委託を受け、前原町教育委員会が実施した。
4. 本書は、前原町教育委員会社会教育課主事林 覚の協力を得て、川村 博が編集した。

1. 遺 跡 名 大浦遺跡群
2. 所 在 地 福岡県糸島郡前原町大字大浦他
3. 事 業 主 体 住宅・都市整備公団九州支社
4. 調 査 主 体 前原町教育委員会
総 括 教育長 河原 吉美
社会教育課長 野口 治三
" 主事 川村 博
5. 調 査 期 間 昭和61年7月1日～昭和62年3月31日
6. 調 査 記 録

実測図～遺跡全体図 1/100 1/50

遺構図 1/10 1/20

写 真～6×7白黒フィルム

6×7スライドフィルム

35mm白黒フィルム

35mmスライドフィルム

7. 調査の内容等

調査原因

近年、前原町では、福岡市都市圏の西部として、大きな役割を多方向でそなえる中で、その一つとして、ベッドタウン的要素がみられるようになってきている。このような状況の中で、住宅・都市整備公団では、糸島郡において、住宅供給の一つとして、前原町大字大浦の地に宅地造成の計画が立案され、さらに、前原町自体の総合計画にも人工想定の根拠として、その計画に相乗るようになってきた。

そこで、前原町教育委員会では、公団と埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を協議して、昭和60年度末より実施することになった。ただし、昭和61年度は、諸原因により7月より調査を実施することになった。

調査内容

調査には、県道前原－富士線の東側から開始することになった。調査地区名は、埋蔵文化財発掘調査委託契約書に明記された地区名を使用した。

A地区A地点

A地区は南東部にのびる丘陵で、みかん畑として造成されていた地域である。南斜面に遺跡の存在を想定して調査区を設定したが、検出できず、北側斜面で遺構を確認できた。検出遺構とし

ては、掘立柱住居跡群・柱穴状ピット・土壙などである。時代は奈良～平安初頭と考える。

A地区B地点

A地点の南側で、南斜面にゆるやかな斜面部に、調査区を設定し、住居跡の確認に努めたが、遺構の検出はできなかった。

A地区C地点

A地区の南端で、自然地形の残った部分をC地点として調査した。C地点の東側では奈良時代の墳墓群（木棺墓）、土壙を検出し、西側では弥生時代の遺構（貯蔵穴・溝）を調査した。奈良時代の墳墓には8世紀中頃、弥生時代の貯蔵穴・溝は前期末・中期前半と考える。

また、低墳丘墓を5基調査した。1基は主体部を検出できなかったが、4基は主体部を2～3基検出し、1墳墓の多葬墓として問題を残すものであり、今後の課題になるであろう。時代は5世紀代のものと思われる。

A地区D地点

C地区の北側に調査区を設定して遺構の検出に努め、柱穴状ピット等を検出した。時代は奈良時代を前後する頃である。

A地区E地点

A地区の尾根に狭まれた谷部をE地区として、ABトレンチを設定して、遺構の有無を確認することにした。Aトレンチでは中央部に土壙を検出し、奈良時代8世紀中頃の須恵器を出土した。Bトレンチでは検出できなかった。

B地区A地点

A地区の西側の丘陵をB地区として調査順次実施した。A地点は尾根上に調査区を設定し、柱穴状ピット・古墳1基を確認した。ピットの時期は不明であるが、古墳は斜面部で出土した須恵器で6世紀末～7世紀初頭と考えられる。他に南側にトレンチを設定したが、遺構を検出できず、調査区を拡張することはなかった。

B地区B地点

A地区・B地区の谷部にトレンチを設定し、遺構の把握を努め、土壙・柱穴状ピットより、須恵器の小田氏編年Ⅲ～Ⅶ期が出土した。なお、遺構の時期決定は不可能である。

B地区C地点

A地点の南側に設定した調査区で、溝・柱穴状ピットを検出した。溝は、弥生時代の環濠の一部かと調査中に考えたが、出土遺物は奈良時代のものである。

B地区D地点

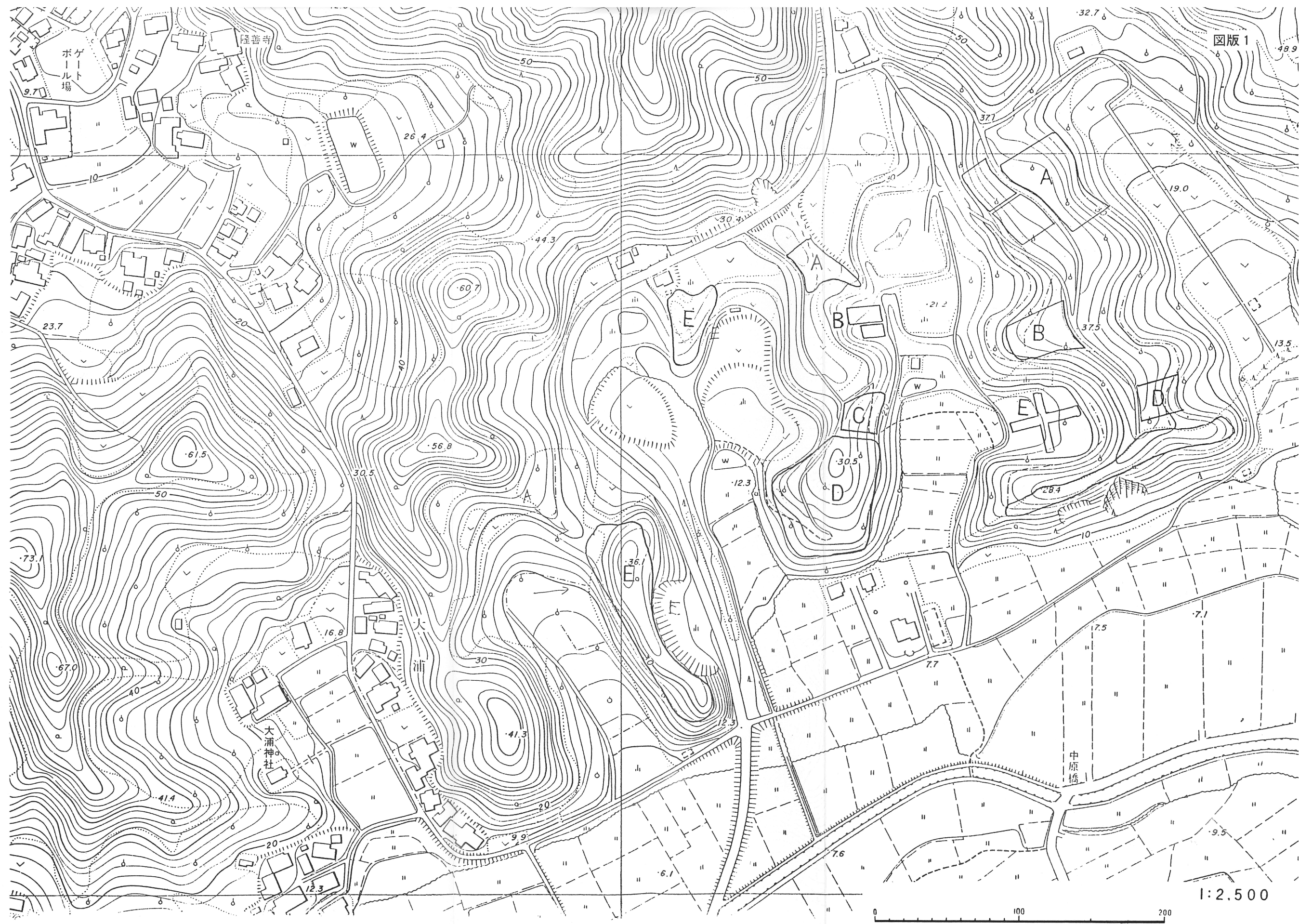
B地区の南側をD地点として、トレンチを設定して調査した。みかん畑の造成地で、調査中は多くの排土をみたが、遺跡の残存度は非常によく、多数の住宅跡を確認した。住居跡の大半は、飛鳥時代から平安時代初頭におきます住居跡であるが、今後の遺物整理後に明確にしたいと考える。

版 圖

B地区E地点

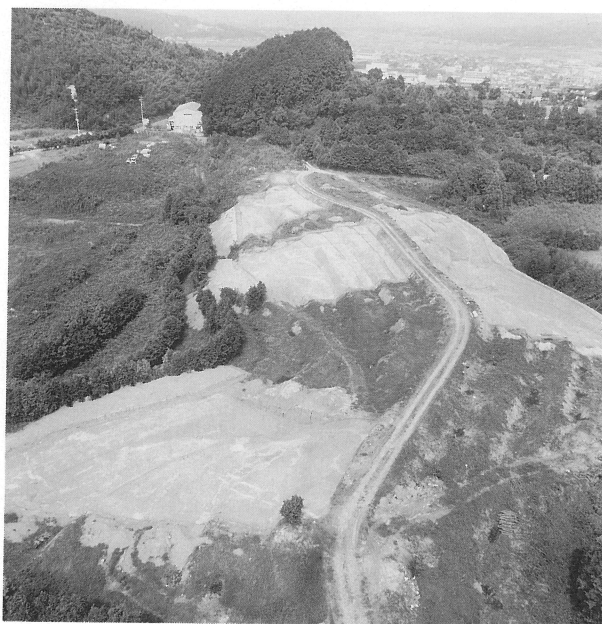
この地点は、古墳1基が周知の遺跡として知られていた地点で、その古墳を中心に調査した。古墳は古墳時代後期で6世紀後半に比定できる。主体部は横穴式石室で、石室内部に樹木の根廻り等の根で、多くの調査時間等を費やした。単式両袖式で、須恵器・鉄刀・刀子・鉄鏃を出土した。時期は6世紀末と考えられる。

他に、5世紀代と考えられる墳丘もあるが、確定できるものではない。





A 地区全体写真



同 上



A 地区 B 地点全体写真



A 地区 A 地 区



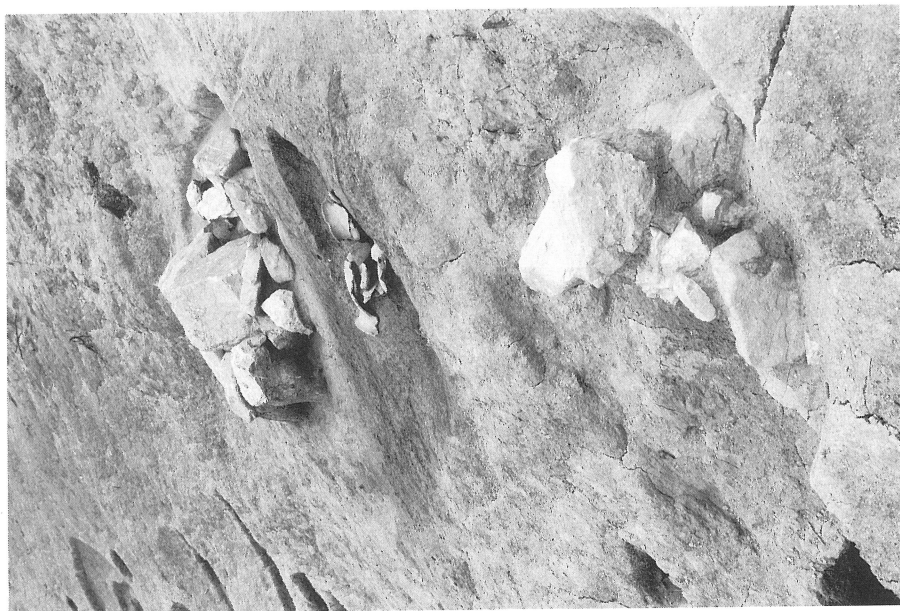
A 地区 A 地点北側調査区全体



同 上



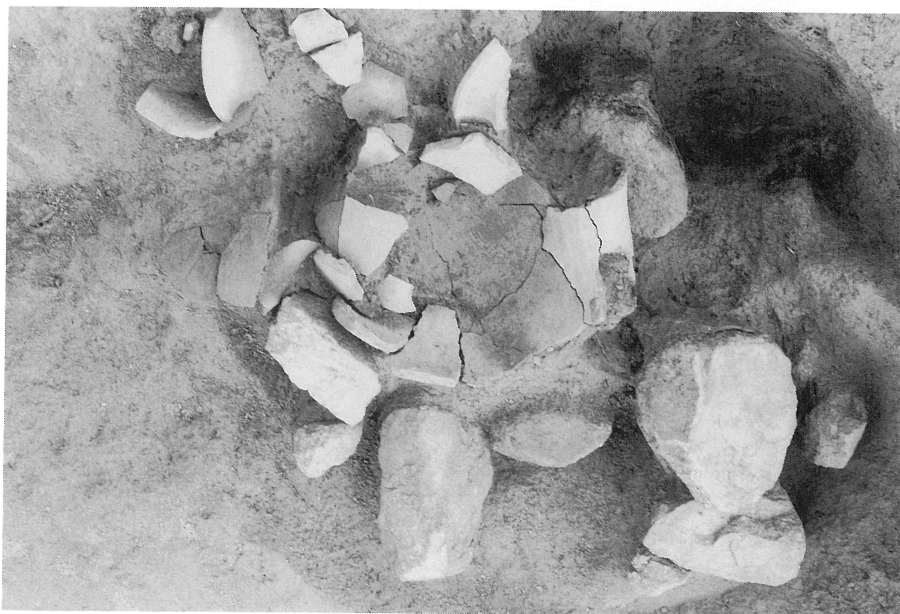
A 地区 A 地点掘立柱遺構



A 地区 S X 遺 構



A 地区 S X 01



A 地区 S X 02



A地区 A地点 SX 03



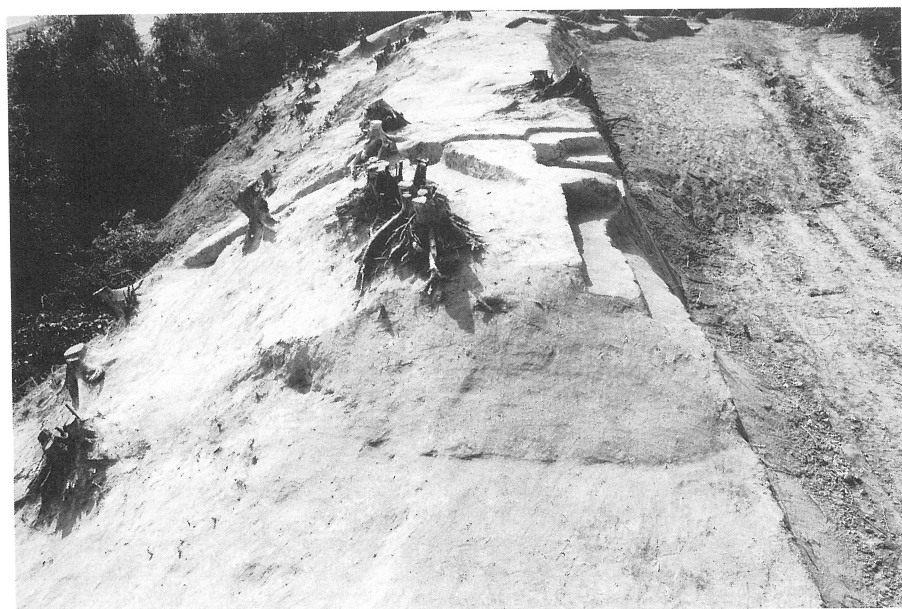
A 地区 C 地点 低填丘墓群



同 上



A 地区 低墳丘墓 2 号墳



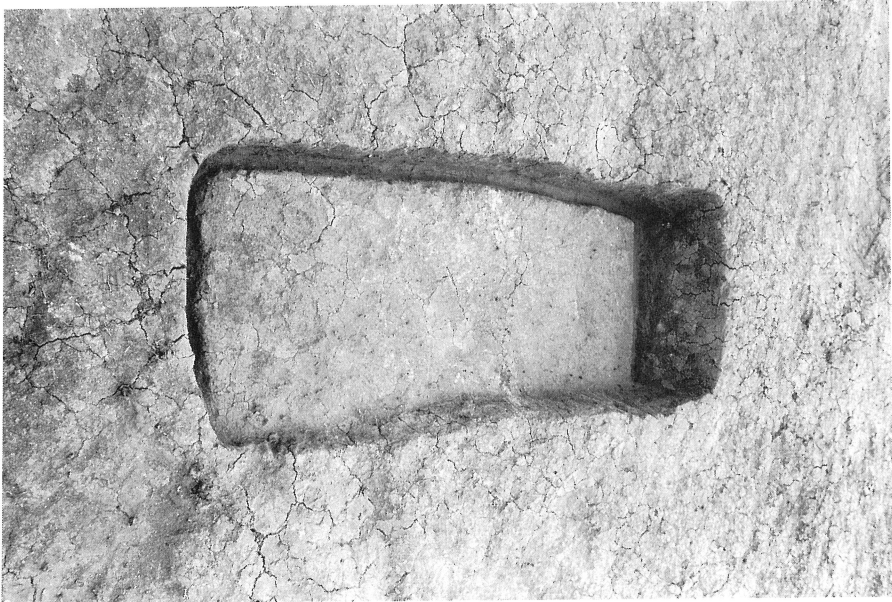
A 地区 低墳丘墓 3 号墳



A 地区 C 地点 奈良時代墳墓群



同 上



A 地区 C 地点 奈良時代木棺墓



同 上



A 地区 C 地点 弥生時代遺構群



同 上



A地区 D地点 全体写真



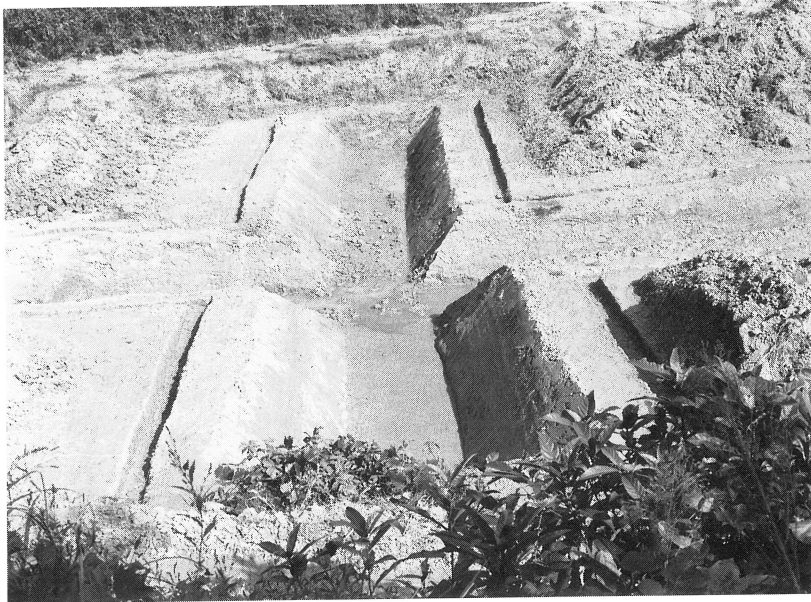
同 上



A 地区 E 地点 全体写真



A 地区 E 地点 A トレンチ



A 地区 E 地点 B トレンチ



B地区 A地点 全体図



A地点柱穴状ピット出土状況



B地区 A地点 1号墳



同 上



B地区 B地点 柱穴状ピット出土状況



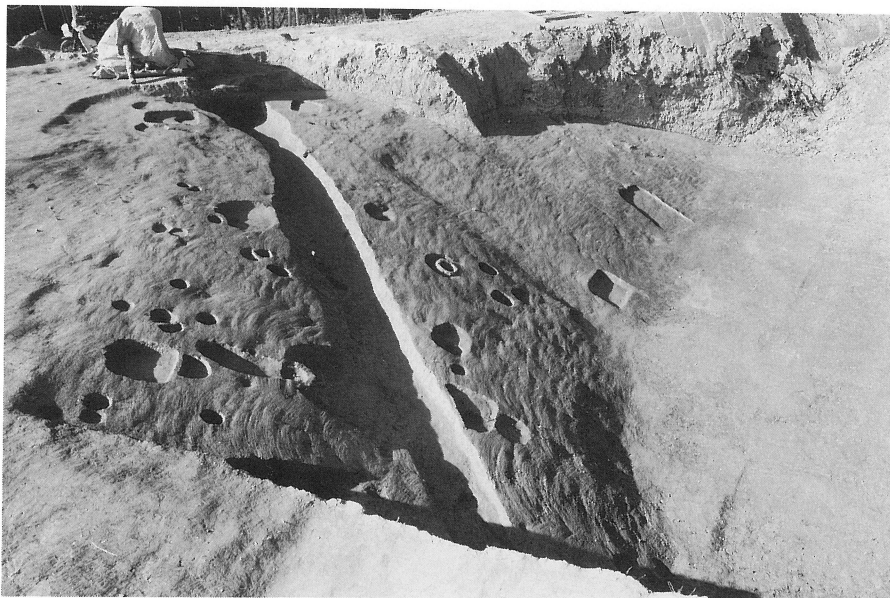
B地区 B地点 土壙出土状況



B地区 B地点 土层图



同 上



B地区 C地点 全体



同 上



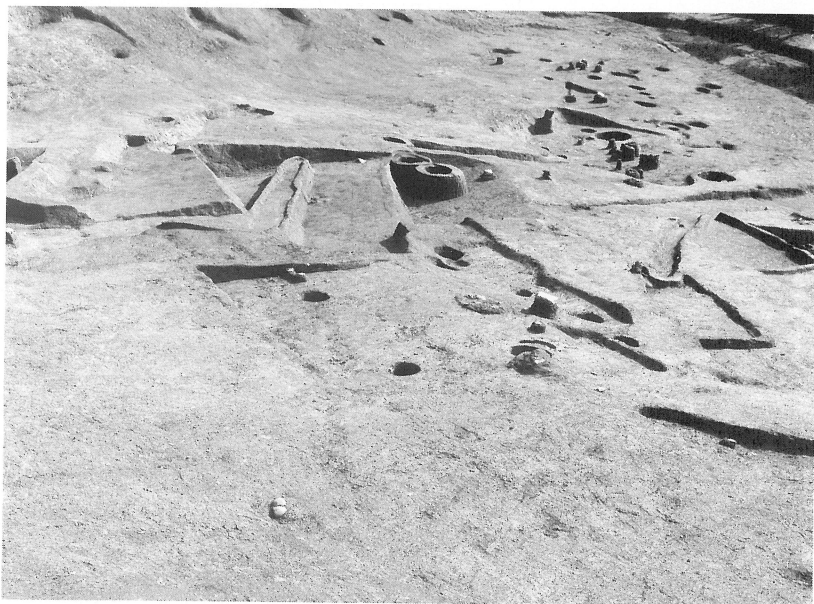
B地区 C地点 溝・ピット出土状況



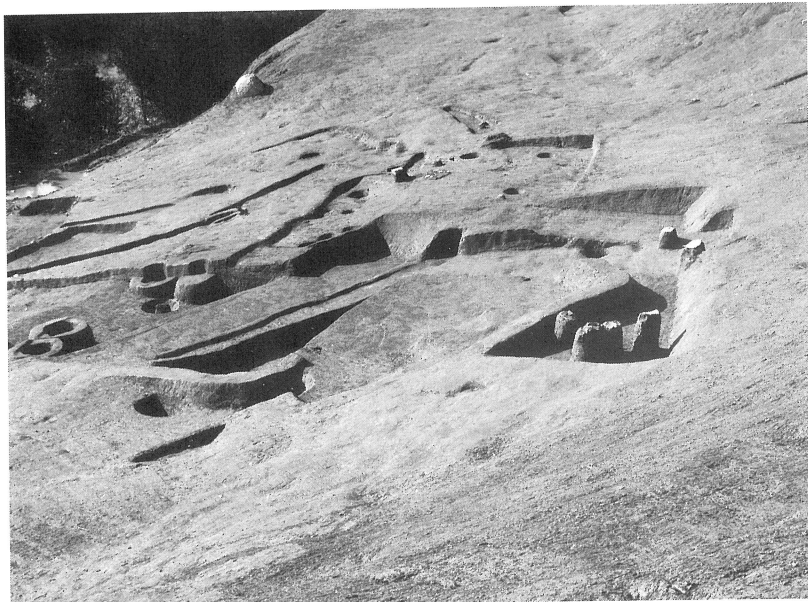
B地区 C地点 溝出土状況



B地区 D地点 住居跡群



同 上



B地区 D地点 住居跡群



B地区 D地点 住居跡



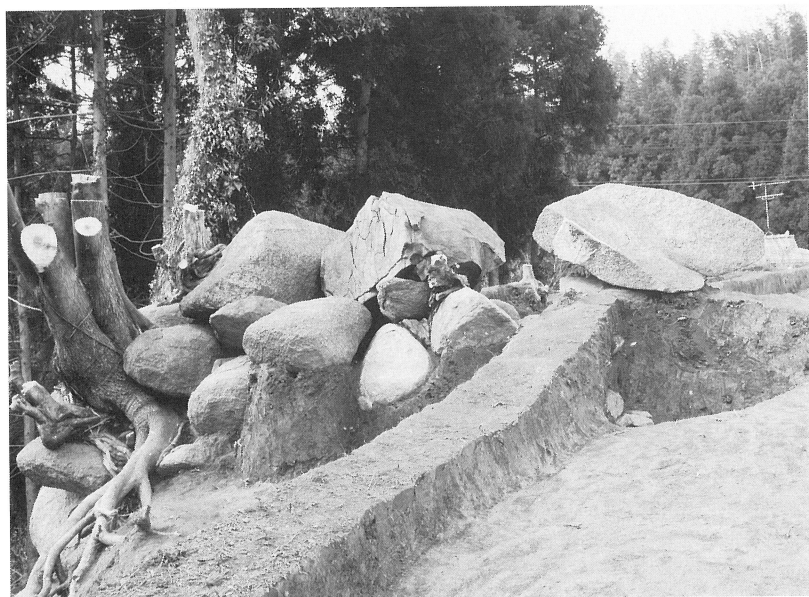
B地区 D地点 I号墳羨道部（調査前・伐開後）



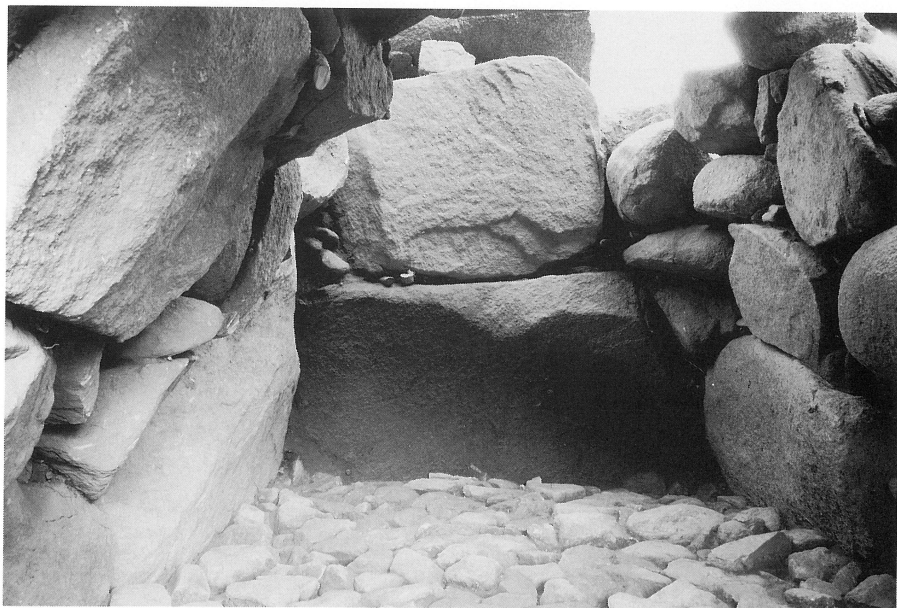
B地区 D地点 天井部（調査前・伐開後）



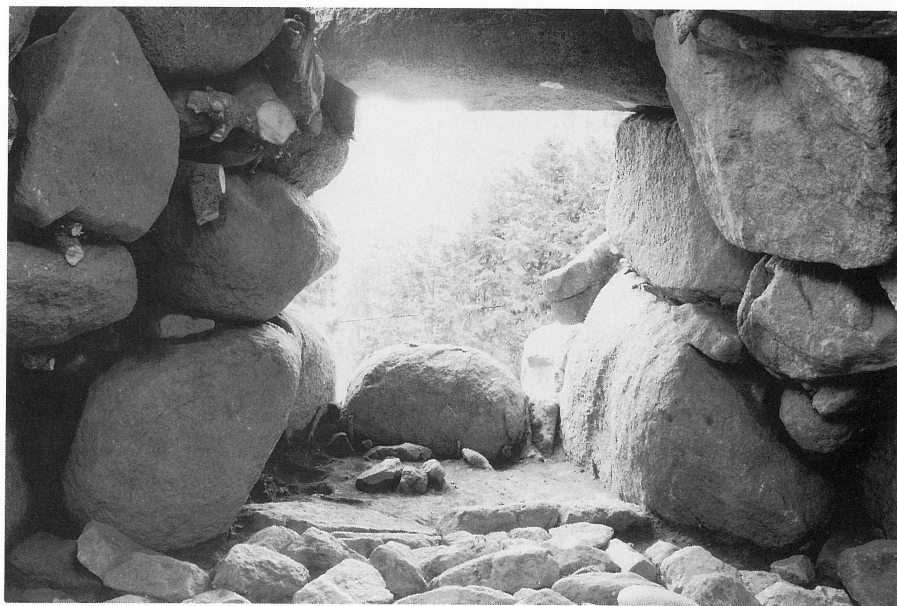
B地区 D地点 I号填筑道部



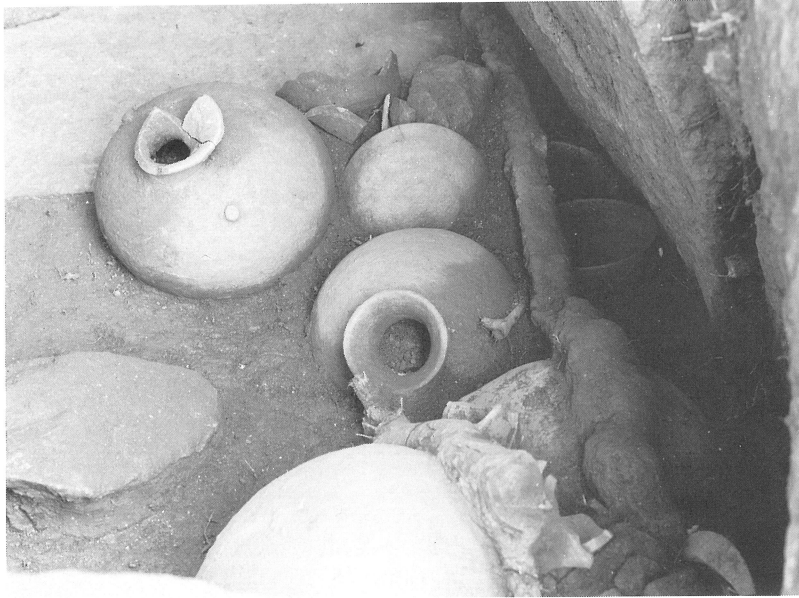
B地区 D地点 天井部



B地区 D地点 I号墳奥壁部



B地区 D地点 羨道部



B地区 D地点 遺物出土状況



同 上



B地区 D地点 I号填石室床石



B地区 D地点 周溝土層図

大浦遺跡群発掘調査概報

前原町文化財調査報告書

第 26 集

昭和 62 年 3 月 31 日

発 行 前 原 町 教 育 委 員 会
福岡県糸島郡前原町大字前原623

印 刷 青 柳 工 業 株 式 会 社 印 刷 部
福岡市中央区渡辺通2丁目9-31

